

# 令和元年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

## 問 題 集

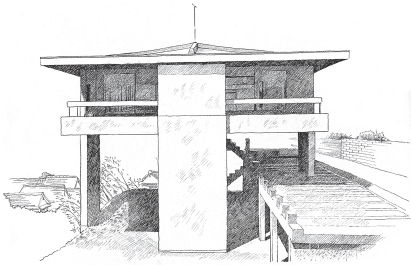
次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

### 〔注意事項〕

1. この問題集は、表紙を含めて**10枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四肢択一式**です。
4. **解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に所定の要領ではっきりとマークして下さい。**
5. 解答に当たっての留意事項は、下記の(1)～(3)のとおりです。
  - (1)**適用すべき法令については、平成31年1月1日現在において施行されているもの**とします。
  - (2)建築基準法令に定める「構造方法等の認定」、「耐火性能検証法」、「防火区画検証法」、「階避難安全検証法」及び「全館避難安全検証法」の適用については、問題の文章中に**特に記述がない場合**にあつては**考慮しないもの**とします。
  - (3)地方公共団体の条例については、**考慮しないもの**とします。
6. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます**（中途退出者については、持ち帰りを禁止します）。

[No. 1] 図A～Dに示す住宅とその設計者との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

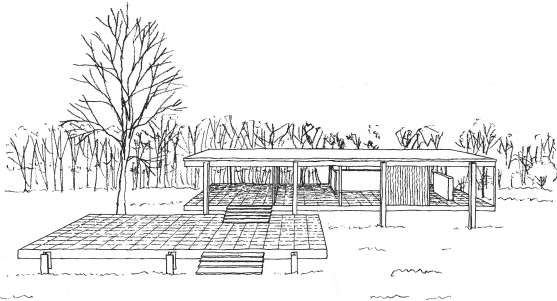
A. スカイハウス



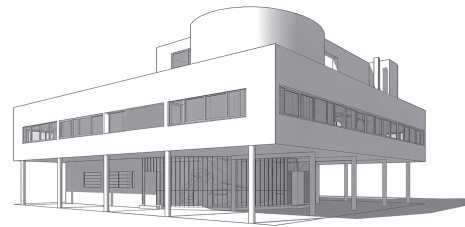
B. シュレーダー邸



C. ファンズワース邸



D. サヴォア邸

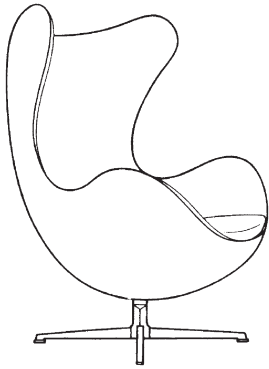


1. A —— 菊竹清訓
2. B —— ヘリット・トーマス・リートフェルト (Gerrit Thomas Rietveld)
3. C —— ミース・ファン・デル・ローエ (Mies van der Rohe)
4. D —— フランク・ロイド・ライト (Frank Lloyd Wright)

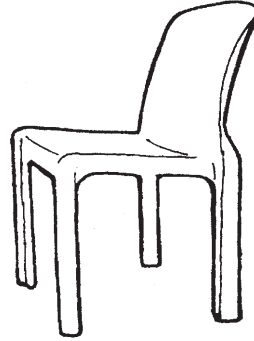
(注)No.1の図Bについては、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。  
図B：「ビジュアル版西洋建築史—デザインとスタイル」(丸善出版発行、1996年)

〔No. 2〕 図に示す椅子と作家名との組合せとして、最も不適當なものは、次のうちどれか。

1. ジョー・ポンティ  
(Gio Ponti)



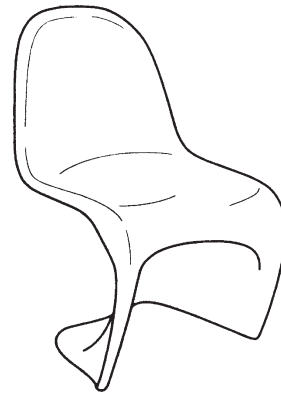
2. ビコ・マジストレッティ  
(Vico Magistretti)



3. チャールズ・イームズ  
(Charles Eames)



4. ヴェルナー・パントン  
(Verner Panton)



(注)No.4の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。

肢1、4：「インテリア学辞典」(壁装材料協会発行、1995年)

肢2、3：「インテリアの計画と設計 第二版」(彰国社発行、2006年)

〔N o. 3〕 建築計画に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. S I (スケルトン・インフィル)は、建築物を構造体と内装、設備に分けて設計、建築する考え方であり、ライフスタイルの変化などに伴う設備、間取り等の変更に対応しやすい。
2. F M (ファシリティマネジメント)は、建築物自体のデザインにより、建築物内外に生じる熱や空気や光等を制御して、暖房・冷房効果、照明効果等を積極的に得ることを意図した設計手法のことである。
3. P F I (プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)は、国や地方公共団体の事業コストの削減や、より質の高い公共サービスの提供を目的として、公共施設の建築、維持管理、運営等を、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法のことである。
4. P O E (ポスト・オキュパンシー・エヴァリュエーション)は、設計された環境を利用する者にとっての有効性の検証であり、入居後評価とも言われる。

〔N o. 4〕 建築計画に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. シェアハウスは、数人がそれぞれの個室を有し、トイレ、浴室、キッチン等を共用する住宅である。
2. ケアハウスは、家族による援助を受けることが困難な高齢者が入居する、生活相談、入浴、食事の提供、緊急時対応の機能をもつ軽費老人ホームである。
3. コーポラティブハウスは、同一敷地内に住むことを希望する者が組合をつくり、住宅の企画・設計から入居・管理までを運営する集合住宅である。
4. タウンハウスは、共同で住むことを希望する者が集まり、個人の専有住戸とは別に共用空間を設け、食事や家事の一部を共同で運営する集合住宅である。

〔N o. 5〕 次の「人間工学に関する用語」と「インテリア計画に関する事項」との組合せのうち、**最も関係の少ないもの**はどれか。

1. パーソナルスペース —— トイレブースの寸法
2. ソシオペタル ————— 椅子の配置
3. 流動係数 ————— 出入口の幅
4. 単位幅 ————— 廊下の幅

〔N o. 6〕 車椅子使用者に配慮したインテリアの寸法に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンセントの高さを、床面から40cmとした。
2. トイレブースの出入口の有効幅を、70cmとした。
3. 人と車椅子使用者が対面ですれ違えるように、廊下の有効幅を150cmとした。
4. 壁掛け式の洗面台の洗面器の上端高さを、床面から75cmとした。

〔N o. 7〕 光環境に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 室内におけるシルエット現象の防止には、ブラインド等で窓面の輝度を下げることが有効である。
2. 人の目が明るさの変化への順応に要する時間は、暗順応より明順応のほうが長い。
3. 演色評価数は、ある光源の下での色の見え方が、基準光の下での色の見え方に近いほど大きくなる。
4. 光の色温度は、その光色の色度に近似する色度の光を放つ黒体の絶対温度で表される。

〔N o. 8〕 結露及び温熱環境に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 木造の建築物において、外壁の内部結露の防止には、外装材と断熱材との間に通気層を設けることが有効である。
2. 伝熱現象には、伝導、対流及び放射の三つがある。
3. グローブ温度とは、周囲からの熱放射の影響を考慮した温度である。
4. 建築材料の熱伝導率の大小関係は、一般に、木材>普通コンクリート>金属である。

〔N o. 9〕 音環境に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 残響時間とは、室内において音源の音が停止した時点から、音圧レベルが60dB低下するのに要する時間である。
2. 人の可聴周波数の上限は、一般に、年齢が上がるにつれて低下するので、高齢者は周波数の高い音が聴き取りにくくなる。
3. 多孔質材料の吸音率は、一般に、低音域の音より高音域の音のほうが大きい。
4. 音圧レベルの等しい二つの音を同時に発生させた場合、音圧レベルの大きさは2倍になる。

〔N o. 10〕 色彩に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 明所視において同じ比視感度である赤と青であっても、暗所視においては、赤より青のほうが明るく見える。
2. マンセル表色系において、「5G 7/8 と表される色」より「5G 8/6 と表される色」のほうが明度は高い。
3. マンセル色立体では、中心軸に近いほど彩度の高い色である。
4. 減法混色は、色を吸収する媒体を混ぜ合わせて別の色を作るとをいい、混ぜ合わせを増やすごとに明度が下がる。

〔N o. 11〕 空気調和設備に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. デシカント空調は、乾燥剤などを用いることで、温度・湿度をコントロールするシステムである。
2. CO<sub>2</sub>制御は、室内におけるCO<sub>2</sub>の設定濃度に見合う新鮮外気のみを取り入れ、外気負荷の低減を図るシステムである。
3. ナイトパージは、外気及び排気の間で空気中の熱及び水分の交換を行い、外気負荷の低減を図るシステムである。
4. 変風量単一ダクト方式は、定風量単一ダクト方式と比べて、空気の搬送動力の低減を図ることができるシステムである。

〔N o. 12〕 給排水衛生設備に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

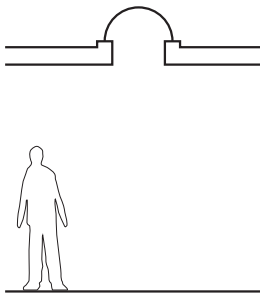
1. バキュームブレーカーは、吐水した水又は使用した水が逆サイホン作用によって給水管に逆流するのを防止する器具である。
2. 大便器の洗浄方式における洗浄弁(フラッシュバルブ)方式は、タンク内に一定量貯留した水を便器へ給水する方式である。
3. 排水トラップは、排水を伴う器具などと排水管を接続する箇所に取り付け、排水管を通じて臭気や虫・小動物などが室内に侵入することを防止する封水機能をもつ器具である。
4. 通気管は、排水管内の圧力変動を緩和するために設ける。

〔No. 13〕 床に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

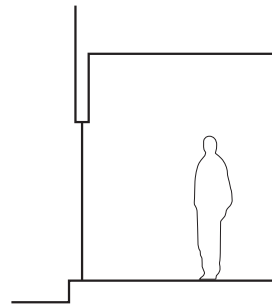
1. フリーアクセスフロアは、オフィス等の床下配線を可能にするとともに、家具の平面レイアウトの変更にも対応できる架構式床である。
2. 束立て床は、木造軸組工法の1階に用いる床組で、束石の上に束を立てて大引を渡しかけ、その上に根太をかけて床を張る床組である。
3. 転ばし床は、床束を用いず、土間コンクリートなどの上に直接根太又は大引を敷く床組である。
4. 梁床は、木造枠組壁工法の2階床組として多く用いられる形式で、床梁、根太などから構成される。

〔No. 14〕 窓の形状の模式図とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

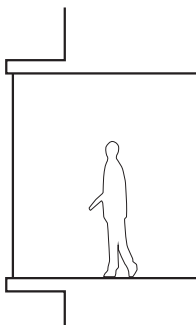
1. ハイサイドライト



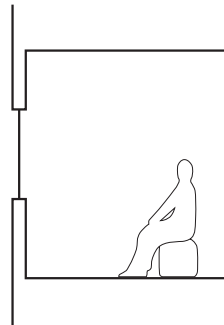
2. 掃出し窓



3. ベイウィンドウ



4. 腰窓



〔N o. 15〕 住宅の階段に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 階段の天井高は、階段の勾配と直角に2,100mm程度の高さを確保することが望ましい。
2. 回り階段の踏面寸法は、踏面の狭いほうの端から300mmの位置において測るものとする。
3. ノンスリップ段鼻材の頂部の高さは、つまずきの原因とならないように、段板面から10mm以下とするのが望ましい。
4. 階段の有効幅は、手すりを含めない寸法で、750mm以上とする。

〔N o. 16〕 建具及び建具まわりに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 組子は、障子や格子戸などの<sup>かまち</sup> 框や棧の間に組み込まれる細長い部材である。
2. フラッシュ戸は、下地骨を組み、その両面を平らな面材で張り上げた構造の戸である。
3. 押縁は、窓や入口の枠と壁仕上げ材料の納まりのために、枠回りに取り付けられる化粧材である。
4. 鏡板は、板戸で<sup>かまち</sup> 框や棧の間にはめ込む一枚板である。

〔N o. 17〕 塗壁に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

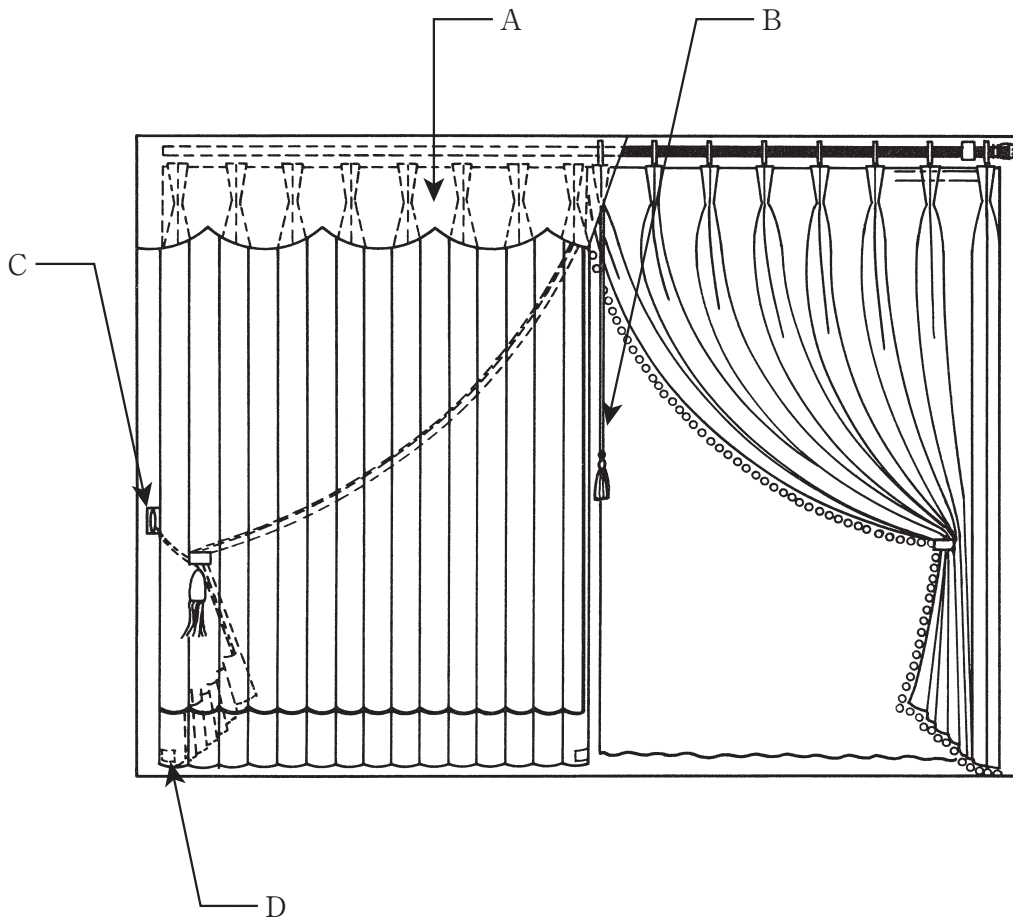
1. 土壁は、調湿性に優れている。
2. ドロマイトプラスター塗壁は、耐水性に劣っている。
3. せっこうプラスター塗壁は、耐熱性に劣っている。
4. 漆喰<sup>しっくい</sup>塗壁は、耐久性に優れている。

〔N o. 18〕 畳の規格寸法の大小関係として、最も<sup>・</sup>適<sup>・</sup>当<sup>・</sup>なものは、次のうちどれか。

1. 京間>田舎間>中間
2. 京間>中間>田舎間
3. 中間>田舎間>京間
4. 中間>京間>田舎間



[No. 19] 図に示すカーテンの各部A～Dとその名称イ～ニとの組合せとして、最も適切なものは、次のうちどれか。



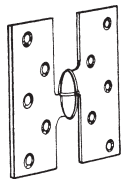
- イ. ふさかけ
- ロ. バランス
- ハ. カーテンバトン
- ニ. カーテンウェイト

	A	B	C	D
1.	ニ	イ	ハ	ロ
2.	ロ	ハ	イ	ニ
3.	イ	ロ	ハ	ニ
4.	ニ	ハ	イ	ロ

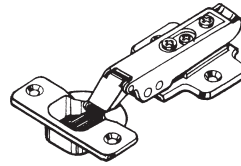
(注)No.19の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。  
「インテリア大辞典」(壁装材料協会発行、1988年)

〔No. 20〕 図に示す丁番とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

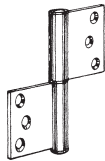
1. フランス丁番



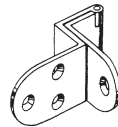
2. スライド丁番



3. 旗丁番



4. ピアノ丁番



(注)No.20の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。

「平成17年度 第23回インテリアコーディネーター資格試験 問題用紙 < インテリア商品と販売の基礎知識>」  
(公益社団法人 インテリア産業協会)

〔No. 21〕 照明に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. グレアは、ある面を単位時間を通して光の放射エネルギー量を、視感度で補正した値である。
2. 遮光角は、照明器具の光源やその反射面等が目に入らなくなる限界線と、照明器具の水平面とのなす角度である。
3. 配光特性は、照明器具の光学特性の一部であり、光度の角度に対する変化又は分布である。
4. LEDランプは、一般に、光線に紫外線をほとんど含まない。

〔No. 22〕 住宅用の設備機器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 潜熱回収型ガス給湯機は、従来、水蒸気として大気に放出されていた潜熱を回収し、これも給湯に利用するものである。
2. 強制同時給排気型のレンジフードファンは、給気及び排気を同時に行うことから、室内外の気圧の差が生じにくい。
3. CO<sub>2</sub>冷媒ヒートポンプ給湯機は、一般に、大気から熱をとり、高温の湯を貯湯して給湯するものである。
4. 家庭用燃料電池は、都市ガスを燃料としたエンジンで発電し、同時に得られる熱を給湯などに利用するものである。

〔N o. 23〕 排煙設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 排煙設備の排煙効率を高めるため、防煙垂れ壁を設置した。
2. 防煙垂れ壁によって区画された一方を機械排煙、他方を自然排煙とした。
3. 機械排煙の排煙機を、排煙系統の最上部に設けた。
4. 自然排煙とする部屋の排煙能力を高めるため、下部に給気口を設けるとともに、排煙窓をより高い位置に設けた。

〔N o. 24〕 建築物の避難計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 高層の事務所ビルにおいて、避難階段の近くにトイレを配置した。
2. 階段室において、避難階が明確にわかるように、避難階の上階からの階段と下階からの階段とを、連続させない計画とした。
3. 全ての階の階段室の扉を、階段室内側に開くように設けた。
4. 特別避難階段の付室において、滞留スペースを広く確保するため、廊下から付室への入口と付室から階段室への入口とを離して設けた。

〔N o. 25〕 工事現場の安全確保に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. スレート葺屋根の上で作業を行うので、幅20cmの歩み板を設け、防網を張った。
2. 高さが2mの箇所で作業を行うので、足場を組み立て、作業床を設けた。
3. 移動はしごは、幅30cmの丈夫な構造とし、すべり止め装置を取り付けた。
4. 高さが3mの箇所での作業時に、強風のため、墜落の危険が予想されたので、作業を中止した。

〔N o. 26〕 内装工事に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. カーペットのグリッパー工法の下敷き用フェルトは、グリッパーの厚さより薄いものを用いた。
2. フローリングボードを下地板の上に張る際に、特記がなかったので、ボード厚の3倍の長さの釘を用いた。
3. 壁のせっこうボードの重ね張りにおいて、上張りボードと下張りボードとのジョイント位置が同位置にならないように留め付けた。
4. 天井のせっこうボード張りにおいて、テーパーボードを使用するに当たり、突き付けたジョイント部の目地処理は、テーパー部では幅200～250mmの範囲で行った。





〔N o. 27〕 塗装工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木質系素地面に塗装する場合、素地の含水率が18%だったので、塗装を行った。
2. けい酸カルシウム板下地には、シーラーを全面に塗った。
3. 屋内のコンクリート壁面は、アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)とした。
4. 塗装場所の気温が4℃、相対湿度が90%だったので、塗装を行った。

〔N o. 28〕 建具・ガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ガラスブロックを平積みするに当たって、特記がなかったので、目地幅の寸法を10mmとした。
2. 外部に面した建具に複層ガラスをはめ込む場合、下端のガラス溝に直径6mmの水抜き孔を1箇所設けた。
3. 高遮蔽性熱線反射ガラスは、反射膜が室内側になるように取り付けた。
4. 工事期間中の管理のために使用するマスターキーを、竣工後にシリンダーを取り替えることなく、簡単な操作により無効とすることができる、コンストラクションキーシステムを採用した。

〔N o. 29〕 J I Sにおける電気設備の配線用図記号とその名称との組合せとして、最も不適当なもの、次のうちどれか。

1.  —— 壁付電話用アウトレット
2.  —— スピーカ
3.  —— 分電盤
4.  —— 誘導灯

〔N o. 30〕 各種工事とそれに用いる施工機器・工具との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. タイル工事 —— ヴィブラート
2. 木工事 —— こて板
3. 石工事 —— ダイヤモンド砥石
4. ガラス工事 —— グレイジングマシン

〔N o. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(旧四会)連合協定「工事請負契約約款」(平成29年12月改正)に照らして、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 受注者は、支給材料又は貸与品について、善良な管理者としての注意をもって保管し、使用する。
2. 支給材料の使用法について、設計図書等に別段の定めのないときは、受注者の判断による。
3. 支給材料又は貸与品の受渡し期日は工程表によるものとし、その受渡し場所は、設計図書等に別段の定めがないときは工事現場とする。
4. 発注者が支給する支給材料又は貸与品は、発注者の負担と責任であらかじめ行う検査又は試験に合格したものとする。

〔N o. 32〕 ガラスに関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 強化ガラスは、耐風圧強度が高く、破損時に鋭利な破片を生じにくい。
2. 熱線吸収板ガラスは、日射エネルギーを吸収し、冷房負荷の軽減効果がある。
3. 網入板ガラスは防火設備用として使用できるが、線入板ガラスは防火設備用として使用できない。
4. 合わせガラスは、複数枚の板ガラスを、専用スペーサーを用いて一定間隔に保ち、中空層に乾燥気体が封入されたものである。

〔N o. 33〕 断熱材に関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材は、透湿性が小さい。
2. フェノールフォーム断熱材は、炎を当てても炭化するだけで、煙はほとんど発生しない。
3. 硬質ウレタンフォーム断熱材は、J I Sにより難燃性能が保証されていることから、溶接時の火花等に対する養生は不要である。
4. 断熱材は大別すると、発泡プラスチック系、無機質繊維系及び木質繊維系に分類される。

〔N o. 34〕 材料とその標準的な表面処理・仕上げとの組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1. A L Cパネル ————— 合成樹脂エマルジョンペイント
2. アルミニウム合金 ——— 陽極酸化塗装複合皮膜
3. 大理石 ————— びしょん
4. コンクリート ————— モノリシック

〔N o. 35〕 都市計画区域内(都道府県知事が指定する確認が不要な区域ではないものとする。)における木造2階建ての一戸建て住宅(同一敷地内にある用途上不可分の関係にある建築物を含む。)に関する次の行為のうち、建築基準法上、**確認済証の交付を受ける必要がないもの**はどれか。ただし、建築物の高さはいずれも9m以下とする。

1. 床面積11m<sup>2</sup>の増築
2. 床面積100m<sup>2</sup>の改築
3. 延べ面積120m<sup>2</sup>の大規模の模様替
4. 延べ面積150m<sup>2</sup>の移転

〔N o. 36〕 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っているもの**はどれか。ただし、いずれの場合も自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当しないものとする。

1. 地階に設ける飲食店で、その用途に供する居室の床面積の合計が90m<sup>2</sup>のものは、内装の制限を受ける。
2. 主要構造部を耐火構造とした2階建ての店舗併用住宅で、1階に存する火を使用する器具を設けた調理室は、内装の制限を受けない。
3. 内装の制限を受ける居室の天井の回り縁は、内装の制限の対象とはならない。
4. 耐火建築物である3階建ての演芸場で、3階にある床面積の合計が400m<sup>2</sup>の客席を有するものは、内装の制限を受けない。

〔N o. 37〕 防火区画等に関する次の記述のうち、建築基準法上、**誤っているもの**はどれか。

1. 建築基準法施行令第109条に規定する防火設備であって、これに通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後1時間当該加熱面以外の面に火炎を出さないものとして、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものを、「特定防火設備」という。
2. 1階及び2階を物品販売業を営む店舗(当該用途に供する部分の各階の床面積の合計がそれぞれ1,000m<sup>2</sup>)とし、3階以上の階を事務所とする10階建ての建築物においては、当該店舗部分と事務所部分とを防火区画しなければならない。
3. 主要構造部を耐火構造とした地上3階建ての共同住宅の住戸のうちその階数が2で、かつ、床面積の合計が180m<sup>2</sup>であるものにおける階段の部分とその他の部分とを防火区画しなければならない。
4. 給水管、配電管その他の管が準耐火構造の防火区画を貫通する場合には、当該管と準耐火構造の防火区画との隙間をモルタルその他の不燃材料で埋めなければならない。

〔N o. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 建築物の高さ31m以下の部分にある3階以上の階には、原則として、非常用の進入口を設けなければならない。
2. 映画館の客用に供する屋外への出口の戸は、内開きとしてはならない。
3. 排煙設備を設けるべき飲食店に設ける排煙設備(特殊な構造のもので国土交通大臣が定めたものを除く。)は、床面積1,000m<sup>2</sup>以内ごとに防煙壁で区画しなければならない。
4. 屋内に設ける避難階段の階段室の屋内に面する壁に窓を設ける場合においては、その面積は、各々1m<sup>2</sup>以内とし、かつ、所定の防火設備ではめごろし戸であるものを設けなければならない。

〔N o. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 小学校における児童用の階段(昇降を安全に行うことができるものとして国土交通大臣が定めたものを除く。)の蹴上げの寸法は、18cm以下としなければならない。
2. 小学校における教室の天井の高さは、2.1m以上でなければならない。
3. 水洗便所で、採光及び換気のため直接外気に接する窓を設けない場合、これに代わる設備をしなければならない。
4. 換気設備を設けない住宅の居室には、換気のための窓その他の開口部を設け、その換気に有効な部分の面積は、その居室の床面積に対して、 $\frac{1}{20}$ 以上としなければならない。

〔N o. 40〕 建築設備等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 共同住宅の各戸の界壁を貫通する給水管は、原則として、当該貫通する部分及び貫通する部分からそれぞれ両側に1m以内の距離にある部分を不燃材料で造らなければならない。
2. 3階建てで、延べ面積の合計が1,000m<sup>2</sup>を超える学校の教室には非常用の照明装置を設けなければならない。
3. エレベーター(特殊な構造又は使用形態のもので国土交通大臣が定めたものを除く。)のかごは、非常の場合においてかご内の人を安全にかご外に救出することができる開口部をかごの天井部に設けなければならない。
4. 避雷設備は、原則として、建築物の高さ20mを超える部分を雷撃から保護するように設けなければならない。

〔N o. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。

1. 地上2階建て(高さ8m)の旅館で使用するじゅうたんは、防災物品でなくてもよい。
2. 地上4階建て(高さ12m)の小学校で使用する暗幕は、防災物品でなくてもよい。
3. 地上5階建て(高さ20m)の百貨店の屋上で使用する展示用の合板は、防災物品でなければならない。
4. 地上20階建て(高さ60m)の共同住宅の住戸で使用する布製のブラインドは、防災物品でなければならない。

〔N o. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で足りるものはどれか。

1. 小学校から保育所に変更
2. 倉庫から美術館に変更
3. 共同住宅からホテルに変更
4. 作業場から飲食店に変更

〔N o. 43〕 図のような防火対象物(延べ面積450m<sup>2</sup>)において、用途を寄宿舍から旅館に変更する場合、消防用設備等に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。

3 F	床面積150m <sup>2</sup> 、収容人員30人	G L
2 F	床面積150m <sup>2</sup> 、収容人員30人	
1 F	床面積150m <sup>2</sup> 、収容人員30人	

#### 建築物の条件

- ア. 主要構造部を耐火構造とした耐火建築物とする。
- イ. 無窓階を有しないものとする。
- ウ. スプリンクラー設備等は、設置しないものとする。
- エ. 危険物等の貯蔵又は取扱いは行わないものとする。
- オ. 寄宿舍としての使用時には、消防法に適合していたものとする。

1. 避難器具については、用途変更後も、2階以上の階に設置の義務がある。
2. 消火器具については、用途変更後も、設置の義務がある。
3. 自動火災報知設備については、用途変更後も、設置の義務はない。
4. 屋内消火栓設備については、用途変更後も、設置の義務はない。



〔N o. 44〕 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「景観法」では、景観計画区域内において、建築物の内装のみの変更は、届出の対象とはならない。
2. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」では、建築主等は、3階建て、延べ面積2,500m<sup>2</sup>の事務所の全ての用途を変更して、老人ホームにしようとするときは、当該建築物を、建築物移動等円滑化基準に適合させなければならない。
3. 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」では、建築主は、特定建築物以外の建築物で床面積の合計が200m<sup>2</sup>のものを新築する場合、当該行為に係る建築物のエネルギー消費性能の確保のための構造及び設備に関する計画を所管行政庁に届け出なければならない。
4. 「建築士法」では、鉄筋コンクリート造3階建て、延べ面積1,200m<sup>2</sup>、高さ15mの建築物において、1階部分に、床面積90m<sup>2</sup>、高さ5mの鉄骨造の増築をする場合、二級建築士は、その設計をすることができる。

〔N o. 45〕 教育施設等の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

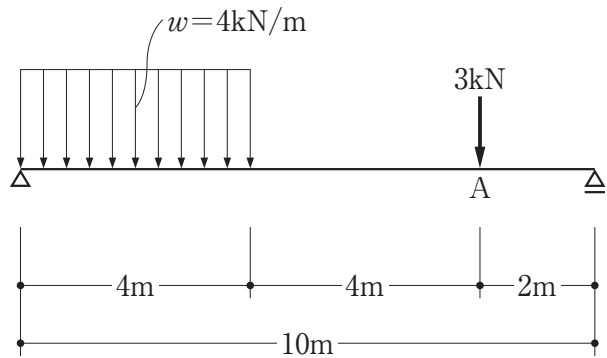
1. 幼稚園において、幼児用便所のブースの仕切りの高さは、安全の確認と幼児の指導のために1.2mとした。
2. 中学校において、図書室の出納システムは、開架式とした。
3. 地域図書館において、新聞や雑誌などを気軽に読む空間として、ブラウジングコーナーを設けた。
4. 博物館において、燻蒸室は、荷解室及び収蔵庫からできるだけ離れた位置に配置した。

〔N o. 46〕 次の建築物と用語との組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. ホテル —— クリーンルーム
2. 学校 —— メディアセンター
3. 劇場 —— ホワイエ
4. 博物館 —— 学芸員室

〔N o. 47〕 図のような荷重を受ける単純梁のA点における曲げモーメントの大きさとして、正しいものは、次のうちどれか。

1. 17.6 kN・m
2. 11.2 kN・m
3. 9.2 kN・m
4. 8.0 kN・m



〔N o. 48〕 免震構造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 免震構造における主要部材であるアイソレータ(支承)には、積層ゴムを使用したものは該当しない。
2. 免震構造における主要部材であるダンパーには、応答変位及び応答加速度を減衰させる機構・機能が要求される。
3. 免震構造は、建築物の最下部に免震層を設ける基礎免震と、建築物の中間階に免震層を設ける中間層免震に大別される。
4. 免震建築物は、大地震時に免震層と上部構造との間に大きな水平変位が生じるので、建築物の周囲に十分なクリアランスを確保する必要がある。

〔N o. 49〕 改修工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 天井の改修工事において、天井ふところが1.5mであったので、軽量鉄骨天井下地の吊りボルトの水平補強と斜め補強を省略した。
2. 床の改修工事において、タイルカーベットの張付けに、粘着はく離形接着剤を使用した。
3. タイル張り仕上げの外壁のひび割れ部を改修するに当たって、健全な部分に損傷が拡大しないように、ひび割れ周辺のタイル目地に沿ってダイヤモンドカッターで切込みを入れた。
4. シーリングの再充填を行うに当たって、既存のシーリング材をできる限り除去するとともに、コンクリートの目地部の軽微な欠損部は、ポリマーセメントモルタルで補修した。

〔No. 50〕 左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート下地壁のセメントモルタル塗りにおいて、上塗りには、下塗りに比べて、セメントに対して砂の割合が小さいモルタルを用いた。
2. コンクリート下地壁のセメントモルタル塗りにおいて、中塗りは、下塗り後、14日間以上放置した後に行った。
3. 木造住宅の外壁のメタルラス張りに先立ち、防水紙を縦横とも90mm重ね合わせてたるみのないように張った。
4. 屋内の床面のセルフレベリング材塗りにおいて、セルフレベリング材の標準塗厚を10mmとした。

